

■安藤昌益 江戸中期に封建的な身分制度を根本的に否定、近年、その驚くべき先進的な思想が知られるようになった。

あんどうしょうえき  
赤穂浪士切腹1703＝

出羽国秋田郡二井田村(現在の大館市内)で、豪農安藤孫左衛門の次男に生まれたらしい。

徳川綱吉没・1709＝6歳：

乾山陶器店・1712＝9歳：

徳川吉宗将軍1716＝13歳：

・・・・・・1719＝16歳：八戸藩医戸田作庵に養子縁組するが、

小石川薬園・1721＝18歳：

火の見櫓制・1723＝20歳：この年までに戸田家を不縁になった。

この間、出家して禅の修行を積んでいたと考えられる。

・・・・・・1730＝27歳：

享保大飢饉・1732＝29歳：京都で3代目味岡三伯に師事し、医学修業を開始。

昆陽蕃蕃考・1735＝32歳：息子周伯が誕生。

医書「類経」や西川如見「教童暦談」などから決定的影響を受けたと考えられる。

江戸船出没始 1739＝36歳：

さらに確龍堂正信と名乗っていた時期に「太平記大全」を読みこんでいたらしく、「庶民を幕府に従わせるべく展開された『太平記読み』の常識のもと、

梅岩没・・・・1744＝41歳：妻子共々5人で、八戸に移住し、十三日町に医院を開業する。藩主の命で遠野藩からきた侍の治療に当る一方、初めて講演、住職らが感銘を受ける。

徳川吉宗隠居1745＝42歳：「暦大意」成る。この前後に表した「博聞抜粹」は「太平記大全」からの抜粹集といえ、まだ、身分秩序に疑問を持たず、むしろそれを積極的に合理化・正当化していたが、

菅原伝授十・1746＝43歳：この年より、「陸奥・出羽の飢饉が深刻になり、

忠臣蔵・・・・1748＝45歳：この頃、正信から良中と改名。

・・・・・・1749＝46歳：\*大凶作がピークになり庶民が苦しむの見て、その本質を見破り、「太平記読み」を継承・展開しながら、イデオロギー暴露、

徳川吉宗没・1751＝48歳：

・・・・・・1752＝49歳：\*主要な著述を始め、一気に完成したと推定される。「統道真伝」成る。

薩摩藩工事・1753＝50歳：若年ながら第一の高弟となった神山仙庵の序文を得て、\*「自然真営道」刊行するも停止となるが、結果として、「太平記読み」の常識をいち早く告発した思想家になった。

以後も仙庵は詳細な注解を残し、編纂・清書して、昌益思想の到達点「大序」へと集大成して行く。

源内物産会・1757＝54歳：八戸の多数の門人(確門)らを集め、「昌益一門の全国的シンポジウムを開催した後、

宝暦事件・・・・1758＝55歳：妻子を残して、\*単身生地秋田郡二井田村へ移り、

以後、「農民に対する積極的な啓蒙活動を行ううち、

大岡忠光没・1760＝57歳：

・・・・・・1762＝59歳：この地で没した。

没後、農民から守農大神と崇められたが、大弾圧を受け、石碑は破壊され、弟子たちは転向を余儀なくされた。その驚くべき先進的な思想が知られるようになったのは、戦後のことである。